



第66回 日本生殖医学会九州支部会

会 長

檜原 久司

大分大学医学部 産科婦人科学

● 第66回 日本生殖医学会九州支部会 ●

日 時：平成21年 4 月26日(日) 9:00～16:18

| | |
|---------|---------------------------|
| 評 議 員 会 | 9:00～ 9:20 |
| 総 会 | 9:20～ 9:30 |
| 一般学術講演会 | 9:30～12:50 13:30～16:18 |

会 場：エルガーラホール 7階中ホール
福岡市中央区天神1-4-2
TEL (092)711-5017

会 長 榎原 久司
(大分大学医学部 産科婦人科学)

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1-1
TEL 097-586-5922
FAX 097-586-6687

〈注〉

1. 参加費 3,000円
2. 発表時間は発表5分・討論3分です。時間厳守をお願いします。
3. 発表はPC パソコンによる発表のみとさせていただきます。
必ずパソコンをお持ち下さい。
4. 学会当日はこのプログラムを必ず持参してください。
5. 質問がある方は予め質問マイクの近くに待機しておいてください。

PROGRAM

開会の挨拶 9:30

会長 大分大学医学部 産科婦人科学 榎原 久司

第1群 [心理・看護(1)] 9:30～10:02

座長 セント・ルカ産婦人科 上野 桂子

1 ART 施設におけるサポートグループの看護師の役割

セント・ルカ産婦人科

○松元恵利子、二宮 睦、篠田多加子、指山実千代、上野 桂子、宇津宮隆史

2 「治療継続のサポートのあり方」～初診から半年以内～

セント・ルカ産婦人科

○関 こずえ、越光 直子、松元恵利子、指山実千代、上野 桂子、宇津宮隆史

3 ART 施行患者の妊娠判定陰性例に対するサポート

医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

○横田 裕子、白石 幸子、江藤 和子、矢澤美由紀、小山 伸夫

4 患者用に開発されたフォリスチムペン®の効果 ～自己注射に伴う患者の負担を軽減できるか～

蔵本ウイメンズクリニック

○池田 美樹、福田貴美子、園田 敦子、中村 静、久保島美佳、金子 清美、
大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

第2群 [心理・看護(2)] 10:02～10:34

座長 高木病院産婦人科 小島加代子

5 生殖補助医療の課題－生殖補助技術に対する不妊症カップル意識調査結果の再考－

1)九州大学大学院医学研究院 保健学部門、2)蔵本ウイメンズクリニック

○丸山マサ美¹⁾、福田貴美子²⁾、蔵本 武志²⁾

6 1回きりの生殖心理カウンセリングにおける問題点と有効性の検討

松田ウイメンズクリニック

○吉永 明美、日高 清美、池崎 美奈、上浦 千夏、外島あゆみ、伊藤 正信、
松田 和洋

7 信頼・安心の患者確認方法－IDカード導入の試みとアンケート調査による評価－

IVF 詠田クリニック

○愛甲恵利子、谷口加奈子、本庄 考、詠田 由美

8 不妊治療助成事業に関する調査

竹内レディースクリニック付設不妊センター

○永井由美子、立石こずえ、小田原佳子、内村 知佳、竹内 一浩

第3群 [男性不妊・精子] 10:34～11:14

座長 原三信病院 泌尿器科 小松 潔

9 精子頭部の空胞と精子 DNA 断片化に関する検討

セント・ルカ産婦人科

○城戸 京子、熊迫 陽子、長木 美幸、大津 英子、宇津宮隆史

10 診診連携による frozen MD-TESE-ICSI の治療成績

1) IVF 詠田クリニック、2) 天神つじクリニック

○本庄 考¹⁾、泊 博幸¹⁾、内村 慶子¹⁾、國武 克子¹⁾、池邊 慶子¹⁾、
詠田 由美¹⁾、成吉 昌一²⁾、辻 祐治²⁾

11 採精から媒精までの経過時間が体外受精の成績に及ぼす影響

蔵本ウイメンズクリニック

○峰 千尋、江頭 昭義、杉岡美智代、永渕恵美子、田中 啓子、石井 愛、
福田貴美子、大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

12 当科における人工授精に関する検討

琉球大学医学部 器官病態医科学講座 女性・生殖医学

○屋宜 千晶、銘苅 桂子、青木 陽一

13 非閉塞性無精子症の超音波診断③： 超音波検査は精子回収の予測因子になり得るか？

天神つじクリニック

○成吉 昌一、辻 祐治

第4群 [ART(胚発生・培養)] 11:14～11:46

座長 セント・マザー産婦人科 田中 温

14 異機種インキュベータを用いた培養における胚発生の比較検討

古賀総合病院 産婦人科 高度生殖医療センター

○長山 由佳、大里 和広、高橋 典子、肥後 貴史

15 マウスの体外受精胚及び自然交配胚を用いたインキュベータ及び培養液の検討

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科 動物多様性教室

○中村 洋亮¹⁾、大村奈津子¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、栗田松一郎¹⁾、
田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、赤星 孝子¹⁾、楠 比呂志²⁾

16 マウス卵胞卵子の核成熟と発生能に関する検討

1) IVF 詠田クリニック、2) 県立広島大学大学院 総合学術研究科

○泊 博幸^{1,2)}、内村 慶子¹⁾、國武 克子¹⁾、池邊 慶子¹⁾、本庄 考¹⁾、
詠田 由美¹⁾、堀内 俊孝²⁾

17 早期胚分割 (Early embryo cleavage:EC) 判定における至適検鏡時間の検討

IVF 詠田クリニック

○國武 克子、泊 博幸、内村 慶子、池邊 慶子、本庄 考、詠田 由美

第5群 [ART(胚発生・評価)] 11:46～12:18

座長 IVF詠田クリニック 詠田 由美

18 早期分割胚評価法の有用性の検討

竹内レディースクリニック附設不妊センター

○福元由美子、遊木 靖人、山田 裕子、樽松 朋子、黒木 裕子、竹内 一浩

19 早期分割(Early cleavage:EC)胚のMII期における紡錘体解析

IVF 詠田クリニック

○内村 慶子、泊 博幸、國武 克子、池邊 慶子、本庄 考、詠田 由美

20 走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性

1)セント・ルカ産婦人科、2)高度生殖医療技術研究所、3)山形大学・大学院 理工学研究科

○熊迫 陽子¹⁾、後藤 香里¹⁾、小池 恵¹⁾、城戸 京子¹⁾、佐藤 晶子¹⁾、
宇津宮隆史¹⁾、荒木 康久²⁾、阿部 宏之³⁾

21 当院におけるSETへの取り組みとその評価

松田ウイメンズクリニック

○伊藤 正信、日高 清美、池崎 美奈、上浦 千夏、外島あゆみ、川路 珠美、
末永めぐみ、平田 瑠美、松田 和洋

第6群 [ART(凍結胚)] 12:18～12:50

座長 蔵本ウィメンズクリニック 蔵本 武志

22 当院における凍結胚移植の臨床成績

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科 動物多様性教室

○赤星 孝子¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、粟田松一郎¹⁾、田中威づみ¹⁾、
竹本 洋一¹⁾、牟田口亜矢¹⁾、加藤 由香¹⁾、楠 比呂志²⁾

23 35歳以上の症例における融解胚移植数についての検討

中央レディースクリニック

○結城 裕之、古恵良桂子、永浦ひとみ、酒井あゆみ、後藤さゆり、徳満 玲

24 当院における凍結胚移植の検討 -胎状卵胞数別、年齢別、排卵誘発法別-

セントマザー産婦人科医院

○永吉 基、田中 温、粟田松一郎、田中威づみ、曾我 知絵、亀井孝二郎、
金子 芳子

25 全胚凍結後に重症 OHSS をおこした1例

ウィメンズクリニック糸数

○中里 和正、糸数 修、上原 尚、山内 悠

第7群 [ART(成績)] 13:30～14:10

座長 福岡大学医学部産婦人科 井上 善仁

26 クロミフェン採卵有用性の検討

松田ウイメンズクリニック

- 松田 和洋、伊藤 正信、川路 珠美、末永めぐみ、平田 瑠美、日高 清美、池崎 美奈、上浦 千夏、外島あゆみ

27 初回 ART 症例の前周期治療に関する検討

蔵本ウイメンズクリニック

- 大塚未砂子、吉岡 尚美、福田貴美子、杉岡美智代、江頭 昭義、蔵本 武志

28 40歳以上の高齢不妊症患者に対する卵巣刺激法(COH)と卵の quality に関する検討

1) 福岡大学医学部 産科婦人科学、2) IVF 詠田クリニック

- 城田 京子¹⁾、伊東 裕子¹⁾、井上 善仁¹⁾、本庄 考²⁾、詠田 由美²⁾、瓦林達比古¹⁾

29 Gn-RH アナログ治療中に卵胞発育を認め IVF-ET が可能であった POF 症例

鹿児島大学病院 女性診療センター

- 桑波田暁子、沖 利通、河村 俊彦、新谷 光央、儀保 晶子、山崎 英樹、堂地 勉

30 ET 施行困難例に対して子宮頸管拡張術を行い妊娠した3症例

医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

- 小山 伸夫、小牧 麻美、篠原真理子、柴田 典子

第8群 [検査・診断] 14:10～14:42

熊本大学大学院医学薬学研究部 産科学婦人科学 本田 律生

31 着床前診断における新しい FISH 用 DNA プローブの検討

セントマザー産婦人科医院

○竹本 洋一、田中 温、永吉 基、粟田松一郎、田中威づみ、赤星 孝子

32 着床前遺伝子診断における Blastocyst Biopsy の有用性に関する研究

竹内レディースクリニック付設不妊センター

○遊木 靖人、福元由美子、山田 裕子、樽松 朋子、黒木 裕子、竹内 一浩

33 腹腔鏡検査で認められる Fitz-Hugh-Curtis 症候群の臨床像に関する検討

1)長崎大学医学部 産科婦人科学、2)長崎市民病院 産婦人科、

3)長崎大学医学部 原研病理、4)佐世保中央病院

○東島 愛¹⁾、カーン カレクネワズ¹⁾、北島 道夫¹⁾、平木 宏一¹⁾、
藤下 晃²⁾、関根 一郎³⁾、石丸 忠之⁴⁾、増崎 英明¹⁾

34 子宮卵管造影は必要か？—子宮鏡下選択的卵管通水検査の位置づけ—

鹿児島大学病院 女性診療センター

○沖 利通、河村 俊彦、儀保 晶子、新谷 光央、桑波田暁子、山崎 英樹、
堂地 勉

第9群 [子宮内膜症] 14:42～15:14

座長 長崎市民病院産婦人科 藤下 晃

35 充実部分がPET 強陽性を示したチョコレート嚢胞の一例

鹿児島大学医学部 産科婦人科学

- 福田 美香、山崎 英樹、神尾 真樹、寺尾さより、桑波田暁子、沖 利通、
堂地 勉

36 子宮内膜症におけるCA125、CA19-9と内膜症重症度の相関

久留米大学医学部 産科婦人科学

- 中島 章、今石 裕人、藤本 剛史、嘉村 敏治

37 子宮腺筋症核出術後の治療成績(妊娠予後)に関する検討

1)長崎市立市民病院 産婦人科、2)長崎県済生会病院、3)長崎大学医学部 産科婦人科学

- 松本亜由美¹⁾、藤下 晃²⁾、上寫佐知子¹⁾、福田 雅史¹⁾、佐藤 二葉¹⁾、
北島 道夫³⁾、平木 宏一³⁾、増崎 英明³⁾

38 子宮内膜症の増殖に対する精漿の作用に関する検討

1)長崎大学医学部 産科婦人科学、2)長崎市民病院 産婦人科、
3)長崎大学 原研病理、4)佐世保中央病院

- 阿部 修平¹⁾、カーン カレクネワズ¹⁾、北島 道夫¹⁾、平木 宏一¹⁾、
藤下 晃²⁾、関根 一郎³⁾、石丸 忠之⁴⁾、増崎 英明¹⁾

第10群 [症例・その他] 15:14～15:46

座長 鹿児島大学病院女性診療センター 沖 利通

39 当院における不育症患者に対する
「低用量アスピリン・ヘパリン併用療法」の臨床成績

セントマザー産婦人科医院

○栗田松一郎、田中 温、永吉 基、田中威づみ

40 高ゴナドトロピン性卵巢機能不全症例の臨床像の検討

長崎大学医学部 産科婦人科学

○北島 道夫、カーン カレクネワズ、平木 宏一、井上 統夫、増崎 英明

41 重症 OHSS に下肢の動脈塞栓症を合併した一例

高木病院 産婦人科

○牧田 涼子、野見山真理、有馬 薫、小島加代子

42 黄体期に一致して10日以上持続する高熱(40℃)を繰り返した
思春期少女の一例

鹿児島大学医学部 産科婦人科学

○山崎 英樹、寺尾さより、福田 美香、桑波田暁子、沖 利通、堂地 勉

第11群 [手術・子宮外妊娠] 15:46～16:18

座長 大分大学医学部産科婦人科学 河野 康志

43 人工真皮を用いて造脛術を行った Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser 症候群の一例

1) 福岡大学病院 産婦人科、2) 公立学校共済組合九州中央病院

○南 星旭¹⁾、井上 善仁¹⁾、伊東 裕子¹⁾、堀内 新司¹⁾、城田 京子¹⁾、
辻岡 寛¹⁾、野崎 雅裕²⁾、瓦林達比古¹⁾

44 不妊症における子宮鏡下手術

1) 古賀総合病院 産婦人科、2) とえだウイメンズクリニック、3) 宮崎大学 産婦人科、
4) 都城市郡医師会病院 産婦人科

○肥後 貴史¹⁾、高橋 典子¹⁾、大里 和広¹⁾、長山 由佳¹⁾、戸枝 通保²⁾、
山内 憲之³⁾、三部 正人⁴⁾

45 帝王切開創部妊娠ならびに頸管妊娠における メントレキセート局所投与後の管理についての検討

熊本大学大学院医学薬学研究部 産科学婦人科学

○内野貴久子、三好 潤也、岡村 佳則、本田 律生、大場 隆、片渕 秀隆

46 帝王切開癒痕部妊娠に対して外科的切除を施行し子宮を温存できた2例

大分大学医学部 産科婦人科学

○甲斐健太郎、松本 治伸、高井 教行、河野 康志、奈須 家栄、檜原 久司

日本生殖医学会九州支部長挨拶

閉会の挨拶

会長 大分大学医学部 産科婦人科学 檜原 久司

一 般 演 題

1. ART 施設におけるサポートグループの看護師の役割

セント・ルカ産婦人科

○松元恵利子、二宮 睦、篠田多加子、
指山実千代、上野 桂子、宇津宮隆史

【目的】 40歳以上の患者の孤独感やストレスの軽減を目的とし、2001年にサポートグループ第1期を発足した。このグループはクローズド形式で行っており、現在3期～5期が継続中である。今回は3期4期のサポートグループにおける効果と看護師の役割について検討した。

【対象】 主に ART の治療を行っている40歳以上のサポートグループ3期(2005年3月開始)、4期(2006年4月開始)。3期9名、平均年齢41.4歳、4期9名、平均年齢43.1歳。3期4期合同12名、平均年齢43.6歳。スタッフの構成は看護師2～3名、心理士1名であった。

【方法】 半年後と1年後の質問紙調査及び会の逐語録から、グループに対する感想や効果についての内容を抜き出し検討した。

【結果・考察】 患者の感想から「同じ悩みを持つ患者同士で話せる場があること」、「共感でき、分かり合える仲間ができたこと」、「看護師や心理士に話を聴いてもらえ、助言がもられたこと」などがグループに参加して良かった点として挙げられていた。

また、年齢や治療段階が進むに連れて子どものいない生活についても話し合われるようになっており、この会を開催することは意義があると考えられた。また、看護師は医療者として最も身近な存在であり、正確な情報提供を担っている。さらに参加者から得られた情報によって看護師としての役割やサポートを振り返る等の学習の機会も得られ今後役に立ちたい。

2. 「治療継続のサポートのあり方」 ～初診から半年以内～

セント・ルカ産婦人科

○関 こずえ、越光 直子、松元恵利子、
指山実千代、上野 桂子、宇津宮隆史

【目的】 当院では2007年、初診時の心身状態に関わらず初診から半年以内に治療を中断していた患者が多い事を報告した。今回、初診患者の治療に対する思いと半年間の転帰を調査し治療継続のサポートのあり方を検討した。

【対象・方法】 2008年1月～6月の初診患者162名に対し当院作成の質問紙を診察後配布し、その後看護師による初診時の面談時に回収した。さらに、半年後の転帰を調査した。

【結果】 初診時に治療期間の目安を考えている患者は49%であった。その内1年が47%と最も多く、2年24%、半年19%であった。1年又は2年の目安を考えている患者は、半年後も治療を継続していた患者が多かった。半年後の転帰では、対象患者の32%が治療を中断していた。中断時期では、初診時から約2ヶ月以内が最も多かった。中断前の治療内容では、卵管造影直後が最も多く50%であった。初診時の不安内容では「経済的について44%」であった。初診時「経済的に心配」している患者は「心配していない」患者より治療中断が多かった。

【考察】 初診時治療の目安を1年又は2年と考えている患者は治療を継続していたことから、看護師による初診時の面談時に治療期間の目安を踏まえた説明が必要である。又、初診時検査の子宮卵管造影後に治療を中断した患者が多かったことから卵管造影後の継続に向けてのサポートの強化が望まれる。又、経済的不安に対するサポートも重要と考える。

3. ART 施行患者の妊娠判定陰性例に対するサポート

医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

○横田 裕子、白石 幸子、江藤 和子、
矢澤美由紀、小山 伸夫

【目的】 不妊専門クリニックにおいて、ART 施行患者の妊娠判定が陰性であった場合、大きな精神的、肉体的、経済的負担が報われなかった患者の悲しみは大きく、流涙、憤り、怒りとして表現される。また患者は自分の本当の気持ちを医師に対しては伝えないことが多い。患者の悲しみを少しでも和らげたい、そして患者の本当の気持ちを知りたいという思いから、妊娠判定日に妊娠反応が陰性であった患者にスタッフが声をかけて、患者の今の気持ちを傾聴した。

【対象・方法】 平成20年5月から平成20年12月までの間に、ART 施行患者の妊娠判定日に医師が妊娠反応陰性と告知した後、看護師、不妊カウンセラーが声かけをしたのは75症例で、そのうちカウンセリング室にて質問形式で患者の今の気持ちを伺ったのは56症例であった。

【結果・考察】 患者に声をかけた25%はお話を伺うことはできなかった。ショックの直後で何も話したくない時期だったと思われる。残りの75%は患者の気持ちを伺うことができた。期待していたのに妊娠しなくて辛いという率直な気持ちと医師が今回妊娠しなかった理由と今後の治療方針を示して辛い時期を過ぎれば、また治療を続けたいという気持ちになる患者が多かった。

4. 患者用に開発されたフォリスチムペン®の効果 ～自己注射に伴う患者の負担を軽減できるか～

蔵本ウイメンズクリニック

○池田 美樹、福田貴美子、園田 敦子、
中村 静、久保島美佳、金子 清美、
大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

【目的】 我々は ART 患者の負担軽減を目的に自己注射の有効性を報告してきた。今回は患者用に開発されたフォリスチムペン®を使用した群(P群)と従来の注射器を使用した群(S群)で自己注射の効果について検討した。

【方法】 2008年11月～2009年1月にP群50名に無記名回答のアンケート調査を実施し、S群調査150名(2008年報告)と比較した。

【結果】 回収率はS群74%(111/150)/P群76%(38/50)、平均年齢36.2歳/36.3歳、平均不妊期間4年7ヶ月/3年4ヶ月、平均採卵回数2.5回/1.8回。自己注射に対する実施前のマイナスイメージは両群とも90%以上であった。自己注射で難しいと感じた点は針の刺入S群32.7%/P群18.0%、空気抜き31.2%/7.0%、アンプルカット20.6%/0%、トラブルでは空気抜き(液が多く出た)37.3%/13.0%、キャップはずし11.7%/2%、アンプルでの怪我11%/0%といずれもP群で低率であった。注射後の失敗感は29.6%/10.5%、負担感は44.0%/13.1%とP群で低率であった。また1回の注射にかかった時間は平均14.0±6.7分/7.4±4.3分とP群で短縮した。

【考察】 P群でも実施前のマイナスイメージは高かったが、実施後の難しいと感じた点、トラブル、準備中の怪我等、患者が感じる負担は減少し時間的効果もあった。

5. 生殖補助医療の課題 —生殖補助技術に対する不妊症カップル意識調査結果の再考—

¹九州大学大学院医学研究院保健学部門

²蔵本ウイメンズクリニック

○丸山マサ美¹、福田貴美子²、蔵本 武志²

生殖補助医療における社会的適応においては、技術の安全性を第1義として『できる医療と許される医療』における「生命操作がどこまで許されるか」について『人間の尊厳』と言う哲学的・倫理的社会的視点における議論から『治療中カップルを中心とする新しい家族』支援が重要となる。

平成14年度A施設における患者カップルの生殖補助技術に対する態度の意識調査において、調査回答者122名(男性58名/女性64名、平均年齢 男性36.3歳/女性33.8歳)の結果解析を再考した。回答者は、現在の生活において「代理出産」「卵提供」「代理母」について否定的見解であった。カップル以外の第三者の介入する生殖技術については、やはり親子間には「DNAありき」と考え「AID、卵提供、代理母、胚提供は人間のエゴだ」との否定的意見が強かった。自由記載欄には「技術進歩に関する情報開示」「今の時点では、自分の配偶子以外の精子を使う事等、いくら妊娠で苦しんでいるとはいえ考えられない」との意見もあり、最先端医学における技術への期待よりむしろカップル間の「最善の医療」を望んでいる事が明らかになった。

生殖補助医療における人為的介入については、不妊症カップル当事者の態度・意識結果を原点としつつ、治療における患者の自己決定権といった医療の本質に立ち返り「補助医療としての生殖への介入」について再考する事が極めて重要である事が考えられた。

6. 1回きりの生殖心理カウンセリングにおける問題点と有効性の検討

松田ウイメンズクリニック

○吉永 明美、日高 清美、池崎 美奈、
上浦 千夏、外島あゆみ、伊藤 正信、
松田 和洋

一般的に心理カウンセリングは、継続的に実施されることが理想であり、継続されないことによってカウンセラーは力量不足を問われ、無力感を持つ可能性もある。当院では、2007年4月より週1回、臨床心理士が非常勤で勤務し、医療チームの一員として生殖心理カウンセリングを実施している。ホームページやパンフレットでの紹介を行っているが、需要は高くなく、1回きりのことも多い。

そこで今回われわれは同一カウンセラーによる一般心理カウンセリングとの比較を行い、1回きりの生殖心理カウンセリングのなかで、どのようなプロセスがあり、患者がどのような体験をしているのか、どのような関わり方が有効なのか、事例を通して検討した。

その結果、1回きりの生殖心理カウンセリングでは、治療の状況、治療による不安、負担、期待、自分への苛立ち、治療によって影響を及ぼす身近な人との関係性といった不妊治療におけるオリジナルのストーリーをたどっていることがわかった。

さらに、1回きりの生殖心理カウンセリングは、さまざまな要因が問題点として影響していると思われるが、一方で患者が「一度話を聞いてもらうと、気持ちの整理ができ、次の治療もがんばれそうな気がする」といった1回きりの面接の有効性を示すこともある。これはある程度の期間をかけて心理的変容を促す一般心理カウンセリングとは異なる生殖心理カウンセリングの特徴と考えられた。

第 66 回日本生殖医学会九州支部会

会 長：榎原 久司

発行所：大分大学医学部 産科婦人科学
〒 879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘 1-1
TEL 097-586-5922 FAX 097-586-6687

制 作： 株式会社セカンド
〒 862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F
TEL : 096-382-7793 FAX : 096-386-2025